

母語・継承語・バイリンガル教育 (MHB) 研究会講演会

平成 24 年度～平成 28 年度科学研究費補助金基盤研究 (B) 「外国人児童生徒の複数言語能力の縦断的研究
一何もなくさない日本語教育を目指して一」 (研究代表者: 真嶋潤子, 課題番号 24320094) 共催

ダグラス 昌子博士

カリフォルニア州立大学ロングビーチ校教授

多様な背景をもつ継承語話者の学びの支援: プロセス重視の教育の理論と 研究から実践へ

日時: 2016 年 6 月 4 日 (土) 13:10-15:00 (受付 12:40~)

場所: キャンパスプラザ京都 2 階 第 1 講義室

使用言語: 日本語 参加費: 無料

申し込み: 資料準備の都合上、5/27 までに

<<http://goo.gl/forms/glbR29HhJm>>までお申込み下さい。

本講演についてのお問い合わせ先: 立命館大学湯川笑子

<eyt24310@lt.ritsumei.ac.jp>

備考: 当日 MHB 研究会紀要を販売します



要旨

本講演では、心理的、文化的、社会的、経済的に多様な背景を持ち、言語力や学校教育の経験に違いがある継承語話者が、十分に発達していない言語で教育を受けなければいけないという状況で、その学びをどのように支援していけばいいのかという課題への取り組みのための提言を試みる。十分に発達していない言語で教育を受けなければいけないという状況は学校教育にも学校教育外での教育にもみられ、例えば、学校教育の中では、日本で第二言語としての日本語で、日本語を母語とする児童生徒と同じクラスで教育を受けるという状況であり、学校教育外の教育では、海外の継承日本語学校で、日本語のプロフィシエンシーが著しく異なる児童生徒が同じクラスで学習をするという状況である。このように状況は異なるものの、共通する課題は、言語力のハンディがあり、文化をふくめた知識に違いがある学習者が、いかに学習内容の理解を深め、考える力をつけ、同時に学習に必要な言語力を発達させていくのかということである。この問題に取り組むためには、教える側も、言語力が十分なければ内容を学習することはできないという考え方から、言語力が十分ではない状況でも内容を学習していけるという考え方へのシフトと、それを可能にする教育のアプローチをとり入れることが必要となる。

本講演では、認知心理学の構成主義(constructivism)と社会文化理論(Sociocultural Learning Theory)を枠組みとして、継承日本語学習者の研究データをもとに、理解を促進するとはどういうことか、そしてその支援の方法、及び考える力と言語力を発達させる方法を学びのプロセスを重視する方向から分析し、実践への応用の実例を紹介する。

ダグラス昌子博士略歴

カリフォルニア州立大学ロングビーチ校教授。神戸市外国語大学及びオーストラリア国立大学より修士号を取得後、南カリフォルニア大学より教育学で博士号取得。研究テーマは、継承日本語のリテラシーおよび話し言葉の発達、カリキュラムデザインとインストラクション (とくに内容重視の言語教育 CBLI)、子どもおよび大人の日本語教授法。業績については裏面参照